



大阪繊維工業高等学校



摂陵高等学校

秀麗会会報

2号
平成19年(2007年)6月15日
発行 秀麗会

秀麗会会報編集事務局
ベルデアート内
〒540-0035
大阪市中央区釣鐘町1-4-3
舟瀬ビル205
TEL: 06-6944-6936
FAX: 06-6809-2155
E-mail: shureikai@utopia.ocn.ne.jp

久しぶりの母校で 感じたこと



秀麗会副会長
摂陵1期 古賀 郁朗

秀麗会会員の皆様には
まずご健勝のこととお喜び申
し上げます。

私は、摂陵高等学校一期生
で秀麗会副会長を拝命いただ
いております古賀郁朗と申し
ます。今回、指名を受けまし
て、乱筆乱文で申し訳ありま
せんが、一言ごあいさつ申し
上げます。

一昨年の創刊準備号、昨年
の創刊号とで祖田会長、福永
副会長が秀麗会の活動指針、
本誌の意義、それに沿った編
集方針を鮮明に打ち出され第
2号の発行の運びとなりました。
本誌が母校とその卒業
生、現旧職員の交流の場、そ
して架け橋として益々活性化
することを期待しています。
副会長としてのあいさつは
ここまでとして、一卒業生と
して感じたことがあります。
昨年の幹事会で、母校の現

状報告ということでスライド
の上映がありました。そこに
映し出された母校は驚きを通
り越して架空のこのよう
に、まるで何十年後の未来予
想図のようにしか感じとれな
いほどの変ぼうぶりでした。

その後、仕事で茨木に行っ
た際、時間が空いたので久し
ぶりに母校を訪れました。
国道171号線からの導
入口の風景がすっかり変わり、
迷いかけてました。「ひよつと
して10年以上訪れていない」っ
てこと? さらに到着して
びっくり! あの自然につ
つまた、といえば聞こえは
いいですが、へんぴな場所に
あったはずなのに、周辺はえ
えっ!と思うほどの変わり
ようです。
とはいえ敷地を一周する
と気分は高校時代にもどり、
さて恩師にごあいさつをと

思ったところで、ハタと気が
つきました。もう恩師の方
はほとんどが退職されていた
ことを…。行き場所がない!

もちろん今も当時の先生や
役員の先生がいらっしやるの
で、前もって連絡して行けば
いいのですが、ぶらり立ち寄った
ときにの落ち着き場所として、
秀麗会の部屋でもあればと思っ
たりしたのですが…。

また、母校を訪問するきつ
かけとして、卒業生として来
校できる行事の日程を知らせ
ていただければ、訪問しやす
いのではないかと思ったりも
しました。会員の皆さんは
いかがでしょうか。

本誌は皆さんの投稿で成り
立っています。どんな形でも
かまいませんのでさまざま
ご意見、ご感想を編集部へお
寄せいただけますよう、よろ
しくお願い申し上げます。

もくじ

久しぶりの母校で感じたこと
秀麗会副会長 摂陵1期 古賀郁朗 1

大阪繊維学園の歴史

元理事長

元 摂陵中学・高等学校長 片岡 衛 2

母校の近況について

学校長 中垣芳隆 3

PTA会長あいさつ

玉川泰貴 3

第2回 恩師を訪ねて

細見隆先生 4

和太鼓・ピアノ活用報告 4

第2回 母校の現在 5

活躍するクラブ活動 テニス部 5

会員の近況報告

陶芸家 山城建司(繊維4期) 6

淡島神社宮司 前田光穂(摂陵3期) 7

役員・幹事紹介 8

秀麗会会報の題字について

当会報の題字は、繊維2期・小山
昇三氏の筆によるものです。

大阪繊維学園の歴史

大阪繊維工業高校から 摂陵高校への転換

毎年そうである1月末日、

摂陵高校卒業式がある1月30日の午後だったか、摂陵同窓会秀麗会会長をやっている祖田君より電話があり、同窓の小山君と二人で家を訪ねて来てくれた。久し振りに見る二人だった、やはり学生時代の面影を残してあまり変わってはいなかった。用件はその会報に原稿を書けということ、私も学校には長い間関係したから、思い出すことはたくさんあり、洪々ながら承諾させられた。

●全責任を負う

と、いう重さ

私にとって忘れられないのはやはり繊維工高から摂陵への転換の緊迫した半年間ほどの思い出である。繊維工高の設立時はまだ40才にもならな

い若さで元氣も良かったし、相談すべき上司もいたが、それから15年も経ち何もかも背負って立ち向かわねばならない全責任を負ったことは、私の人生で一番苦しいときであった。

●心強いスタッフと

山積みの問題をクリア

元来、紡績協会の労務屋で教育は素人の私が設立はまだしも普通科の高校に転換するのは並大抵のことではなく、先生の入れ換え、生徒集め、学校の方針決定、と校長として全部自分で決めねばならないことだった。幸い、副校長に森君、教頭に山口君をはじめ、非常に協力的であり、かつ、さすがと思わせる知恵者であり、今日の摂陵の基本的な点は大方二人が作ってくれ



元理事長
元摂陵中学・高等学校長
片岡 衛

たのである。

しかし、学校は3年しなければ完成しないし、3年しなければ終われない。一方工業科の先生は退職され6、7人になり、生徒も50人足らずとなりながら一方では普通科の先生はドンドン増し生徒も増える。

●最後の生徒と

教員に感謝

繊維工業科を廃止する最後の職員会議で、私は全職員に「繊維の状況から見て工業科がいずれ廃止せざるを得ない時期が来るだろう。しかし、終わるのであれば最後になりたかった。まだ繊維学科を残している学校がある。それより後になりたかった」と、これが無念のことばであった。3年生45人、教員7人、その

最後の日まで整然と、一人として問題を起す生徒はなかった。私は今もこの生徒たちと先生たちに心から感謝している。そして、工業学校から普通科進学校になれるわけがないと私を冷笑したある工業学校の校長を見返すと共に、最後の3年生に心から礼を言いたい。

今の摂陵の精神的支柱は繊維工業が建てたと誇りを思っ

◎沿革

昭和37年4月

日本紡績協会が大阪府茨木市宿久庄に全寮制大阪繊維工業高等学校(全日制)を開校、第一期生入学する

昭和39年4月

同校敷地内に向陽台高等学校(広域通信制)を併設する

昭和49年4月

大阪繊維工業高等学校を摂陵高等学校(全日制普通科)に改める

昭和59年1月

図書館が完成する

昭和60年4月

摂陵中学校を併設する

平成5年4月

全教室冷房装置を設置

学校説明会の ご案内

摂陵中学校・高等学校の平成20年度入学希望者・保護者対象の学校説明会の日程が決まりました。

〈中学校〉

- 第1回説明会 10月20日(土) 午前
 - 第2回説明会 11月10日(土) 午前
 - 第3回説明会 12月8日(土) 午前
- 会場/学園生徒会館

〈高等学校〉

- 第1回説明会 10月27日(土) 午後
 - 第2回説明会 11月17日(土) 午後
 - 第3回説明会 12月1日(土) 午前
- 会場/学園生徒会館

●オープンスクール

中学3年生対象のオープンスクールも実施します。
実施日 9月1日(土)

●その他、個別相談会も実施します。

※参加お申し込み・

お問い合わせは
摂陵中学校・高等学校入試部
072(640)5570

学校長より「母校の近況について」 伸びる合格率 増える入学者



摂陵中学・高等学校
学校長 中垣 芳隆

秀麗会会員の皆様にはご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。また、平素から母校へのご理解とご協力をいただいておりますことに心からお礼申し上げます。

本校に赴任して早くも1年が経過いたしますが、この間、教職員、生徒に日々接する中で確かな手応えを感じる1年でもありました。

昨年度は「いじめ」「未履修」の問題をはじめとして、教育はかつてないほどに厳しい注目を浴びた1年でしたが、本校は着実に教育実践を重ね、本稿では会員の皆様方に明るいご報告をお届けできる成果を上げることができました。

まず、卒業生の進路につきましては、過去6年間現役生の合格がなかった大阪大学に3名が現役合格を果たしたのははじめ、関学・関大では合格者ベスト100位以内に復帰するなど今後の飛躍を予感させる結果を収めることができました。

また、本校の教育に寄せる保護者、生徒の信頼も高まり、平成11年度以降定員未充足の状況が続いていた中学校においては、昨年度に比べ28名増の99名と、定員を9名オーバーする新入生を迎えることができました。

高等学校においても、男女共学校への志向の高まりと私学志望者の減少という逆風の中で定員を10名越える255名の生徒が入学をいたしました。

今後とも、会員の皆様方に

PTA会長あいさつ

卒業生との協力が 不可欠



摂陵中学・高等学校
PTA会長 玉川 泰貴

この度、PTA会長の重任を仰せつかりました、玉川泰貴でございます。摂陵の薫陶を受けられ、名実共に「すぐれうるわしい」秀麗会様には、平素よりPTA活動に対しましてご理解とご協力、お力添えを賜り、厚く御礼を申し上げます。

摂陵は「生徒、先生、保護者、職員、卒業生」を中心にさまざまな方々のお力で成り立っております。貴会や私たちの役割は、個々の考えを点に例えると、点と点を線に、線を円や輪にしていく大きな役割を担うものだと思います。

さて私自身の本年度PTA活動のテーマは「いきいきと楽しいPTAライフ」です。できるだけPTAが摂陵にかかわれる機会を多くつくりたいと思っております。

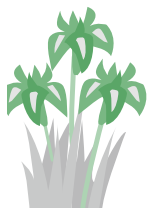
まず私たちPTAが楽しく感じる学校であってこそ、生徒たちも学校生活をのびのびエンジョイできるので、私は考えております。社会全体が成熟した現代に見合う学校運営、楽しくて、オープンで、ワクワクするような摂陵ライフスタイルの構築に、社

会人としての斬新なコンセプトを学校側に提供していくことが必要かと思えます。

貴会にもこのようなシステムづくりにご参加、ご助言いただけると、よりよい「摂陵」にどんどん近づくのではと考えております。

周囲の人に、「摂陵ってどんな学校？」と問われたときに、はっきりと自信を持って「いい学校です！」と答えることができ、生徒たち、卒業生たちみんなが誇りをいだくような学校に、そして「これからますます発展していく」と期待させるような学校にしていこうではありませんか。今後さらに、貴会としっかりと連携をとり、誰もがうらやましい深い学校づくりに、PTAも寄与していきたいと考えております。

最後になりましたが、貴会の益々のご発展と会員様の更なるご活躍をご祈念申し上げます。本紙へのごあいさつとさせていただきます。



シリーズ 恩師を訪ねて 第2回 細見隆先生 変わらぬスリムな体形で悠々自適

今回は、体育教師として赴任され、学校長としてもご活躍された細見隆先生をお訪ねしました。

細見先生は、昭和38年、大阪繊維工業高等学校設立2年目に赴任され、1年生の担任となられました。ざつとばらんで、細かいことはあまり言わない親しみのある先生でし



右から二人目が細見先生



お庭にはりっぱな梅の木が

退職後は、ふるさとである篠山市にもどられました。もとは村の名士であったろうと思われるご実家は敷地がとても広く、お庭には

た。私が卒業して2年目、仕事で悩んでいたとき学校に向いた際、食事に連れて行ってくれたことが思い出されます。ずっと体育教師を続けられ、平成4年から校長となられ、9年に退職されるまで、摂陵中学校・高等学校を引つ張ってこられました。

梅、桃、桜の木が立派に育っていました。山が近いせいかサルが出没し、「明日には食べようと思っていた桃を一晚で食べられてしまったこともある」と笑っておられました。ちなみにサルに食べられないように柵を作ったら、次の年は実が成らなかつたというエピソードもお話くださいました。丹波篠山特産の黒豆や野菜を栽培されており、黒豆を送ってくださいしたこともあり。最近では、県下一斉に小学校区毎に誕生したスポーツクラブの運営と老若男女と共にスポーツを元気に楽しんでおられるようです。40年前と変わらぬスリムな体形とおだやかな笑顔で、今も元気で過ごすごしのご様子に、自分自身が高校時代にタイムスリップしたような気持ちになりました。

(文/繊維2期・祖田好夫)

和太鼓・ピアノ活用報告

摂陵中学校教諭 深水賢

貴会が、母校に寄贈いただいたグラランドピアノ1台、和太鼓2張(ほかに1張を修理)の活用状況についてご報告いたします。

グラランドピアノは、入学式や卒業証書授与式などの学校行事、文化祭やPTA文化行事などの諸活動で大いに活用されています。

また、生徒の情操を高める活動にも積極的に使っています。たとえば、生徒たちが学園生徒会館の大きなホールで、自由にピアノ演奏を楽



PTA文化行事・久元祐子氏演奏



中学生の発表風景(文化祭)

しむことができれば、とてもすてきなことではないでしょうか。一方、和太鼓については、文化祭の大トリとして、活用されています。義務教育を修了し高等課程へ進学した先輩が、中学校の後輩たちを指導しています。くり返しくり返し太鼓をたたくことで、そのリズムを体が覚え込んでいきます。つぶれた手のひらの豆は、先輩と後輩のきずなの証しであり、摂陵のよき伝統として受け継がれています。

母校の現在いま 第2回

裏山の大きな変化

向陽台高等学校教諭 西田昌司(摂陵1期)

「秀麗の丘に健児あり」で、始まる校歌にあるように、北摂連山の小高い丘の上に本校は昭和37年に創立されました。当時は裏山でマツタケが取れ、野ウサギが駆け回るという素晴らしい自然環境の中、清和寮での生活やスクールバスでの通学、情熱を傾けたクラブ活動、友達との語り、そして厳しくもあり、心優しい恩師との出会いを昨日のように感じられる会員の方も多いことでしょう。

校内でも著しく建物の変化が見られます。剣道場や学園生徒会館の建設、グラウンドの整備など教育環境やシステムが整いました。

その中で確実に進学実績を上げ、今や大阪府下私学進学校の雄として確固たる位置を築くまでに発展しています。ここ数年は卒業生の子弟が多く入学してくるのも新しい伝統の一つになっています。

開校以来、「質実・自主・責任」と、脈々と受け継がれる校訓のもと、「摂陵魂」を胸に中学・高校合わせて1200余名の健児たちが日夜文武両道を目指して、汗を流しています。



モノレール開通により駅まで15分

活躍するクラブ活動 テニス部 ~数多くの名選手を生み出す

テニス部は、平成9年春に、国語科教諭の牧田龍彦先生が顧問兼監督に就任して以来現在に至るまで、全国で通用するチーム作りを目標として活動を続けています。

この間、春季大会(インターハイ府予選)では、ベスト4に3回・ベスト8に5回、秋季大会(全国選抜府大会)では準優勝1回・ベスト4に1回・ベスト8に6回の入賞を数えます。

中でも秋季大会で準優勝した11年度は、近畿大会でも4位に入り、翌12年春の全国選抜高校テニス大会に出場しました。

個人の部においても数多くの名選手を輩出しています。毎年9月に開催される近畿高校テニス大会へは10年度から昨年度まで9年連続出場しており、延べ33名の近畿大会出場選手が生まれています。また、12年度の岐阜インターハ



平成12年3月全国選抜高校テニス大会開会式にて

イのダブルスに北島智久・木村恵太組(平成13年卒)が活躍しています。

現在の部員は3年生5名・2年生11名、1年生8名で、4月現在の大阪府高校ランキングでは下道敬太(3年)4位・高木翼(3年)8位・下向隆志(3年)9位・中原優(3年)14位・小川雄大(3年)16位と、府下のトップ20に5名の選手がランクインしています。

また大学テニス界で活躍するOBも多く、慶應義塾大学学庭球部主将でインカレ選手の鳥山洋(平成16年卒)をはじめ、関西大学学庭球部元主将の木村恵太(平成13年卒)、関西外国語大学学庭球部元主将の長野大樹(平成14年卒)、関西学生テニス連盟で幹事長を務めた桐谷大毅(平成14年卒)などがいます。

会員の転居先、近況の連絡は同封のハガキをご利用ください

友人、先輩、恩師の転居先をお知らせください
本会では、「会報」を定期的に発行することにより、会員相互の連携や、母校の現状と発展する雄姿をお伝えしていきたいと考えております。

そのためには会員の皆様の現住所や氏名など連絡先を正しく把握する必要があります。しかしながら、本会の会員数は既に1万人を超え、更に毎年増加しています。そのため、会員と本会との連絡が希薄になりつつあります。会員の転居などにより連絡先などを把握できていない方が残念ながら少なくありません。つきましては、同期の友人たちだけでなく、クラブの先輩、後輩などの同級生(卒業生)や恩師の方々の現住所など連絡先をご存じの方は同封のハガキで、本会までお知らせくださいますようお願い致します。

また、ご自身の近況や在校中の思い出などもお寄せください。いずれも同封のハガキをご利用ください。

メールでも転居連絡、近況報告を受け付けております。



メールをご利用の方はこちらにご連絡ください。
E-mail shureikai@utopia.ocn.ne.jp

会員の近況報告「今、こうしています」

陶芸家として活動中

織維4期(昭和43年卒)・山城建司氏やましろたてし

お父さんの転勤で、函館市立東高校から普通科2年に編入された山城氏。21歳のときから、陶芸家としての道を歩んでこられました。アトリエをお訪ねし、お手製の茶わんで抹茶をいただきながら、お話を伺いました。



お訪ねしたアトリエにて



作品の数々

※写真撮影は織維2期・山手義一氏

同期・寺田氏の紹介がきっかけ

早いもので、陶芸の道に入って30数年になります。茶道具の作陶をしています。私が陶芸をはじめたのは、同期の寺田英樹氏(アルファ広告社長・守山市在住)の紹介がきっかけです。「陶芸をしたい」と持ちかけると、氏の伯父であり、当時、京都工芸繊維大学工芸学部窯業科の教授だった故寺田清教氏に会わせてくれました。その後、寺田教授よ

り京都市立芸術大学講師であった大西政太郎氏を通じて、私の師匠である先代の勝尾青龍洞氏のもと、修業に入ることになりました。

基礎が大切

一般的に陶芸の中で食器は下位に属するように思われますが、本来は食器がベースにあります。その延長線上に茶道具などの芸術性の高いものが生まれます。

しっかりとした基礎ができていない建物が脆弱なように、日常の器づくりができれば、「器」はつくれないのです。

昨年ベストセラールになった本ではありませんが、しっかりとした根っこを持たない人間も、もろいのではないのでしょうか。

何事も基本が大事というのは、私は高校時代に学びました。2年生からの編入でしたが、高校時代は全寮制でしたから、先生も生徒も24時間、文字通り寝食を共にし、勉強・運動(特にサッカー)などに明け暮れる日々を送りました。

なかなかハードな高校生活で、今振り返っても鮮明に先生や学友のことを思い出します。この時代に私の根つこの部分が大きくはぐくまれたのだと思います。そういう意味で、当時の先生や学友に感謝の気持ちでいっぱいになります。

焼きが勝負のとき

私がつくる焼きものでは、1300度をいかに保つか勝負になります。外気温、風向きなど、自然環境の微妙な差が、温度と炉内の雰囲気にも影響を及ぼします。30年以上経験しても、なかなか難しいところですね。果てしない修業ですね。

会員の個人情報の取り扱いについて

- ① 本会は、本会の規約に定める目的及び目的を達成するために行う各種事業活動のために会員の個人情報を利用します。具体的には、会員名簿の作成、会報の作成及び送付、各種行事の開催ご案内などに利用します。
- ② 個人情報について非開示を希望の会員は、同封のハガキに必要事項を記入し、本会まで通知してください。
- ③ 本会は、利用目的の達成に必要な範囲内において、適正かつ適法な手段により、個人情報取得すると共に、個人情報報が正確かつ最新の内容に保たれるように努めます。
- ④ 本会は、利用目的の達成に必要な範囲内において、個人情報の全部又は一部の取り扱いを外部の第三者に委託する場合があります。委託に関しては、個人情報報の安全管理が図られるように必要かつ適切な監督を行います。
- ⑤ 本会は、法令等に定めがある場合を除き、あらかじめ会員の同意なく、個人情報報を外部の第三者に提供することはありません。

山城建司氏 略歴

昭和23年 函館に生まれる
昭和44年 京都で先代・当代勝尾清瀧洞氏に師事
昭和50年 アメリカ・メキシコ各地の陶芸・芸術に接す
兵庫県氷上町八布(現丹波市春日町)に開窯
昭和53年より、アメリカ、日本で個展、合作展などを開催
元新宿・朝日カルチャー茶陶教室講師

※今年は7月に大阪梅田・阪急百貨店美術画廊で個展、9月は芦屋ラポルテ山村サロンにて三人展開催、10月に新潟での個展の予定です。

地元活性化も仕事の二つ

撰陵3期(昭和54年卒)・前田光穂氏

ひな流し神事で名高い和歌山市加太の淡嶋神社。そこで宮司を務めるのが撰陵3期の前田光穂氏です。本来の業務のほか、地域振興にも力を尽くしておられます。

神事も環境に配慮

父の後を継いで、32歳から宮司をさせていただいています。神社では毎年人形を供養する「ひな流し神事」を行います。年間1万5000人前後の人が、家庭で飾らなくなつたおひなさまや日本人形など30数万体を持って奉納に訪れます。その人形を集めて、年に1度3月3日に本殿でおはらいをした後、白木の船に乗せ、先導する船に引かせて加太の海へ流します。今年は3万5000体ものひな人形が集まり、当日は1万2000人もの人出がありました。

昨今は環境問題もあり、実際のところ神事のと人形は焼却処分になるのですが、問

題になるのはダイオキシンドです。最近の人形は塩化ビニール製のものほとんどで、高温で処理しないとダイオキシンが発生します。そのため、高温焼却施設を持つ業者に塩ビ製の人形の処理を依頼しています。それには処理料がかかるのですが、奉納に来られる方に事情を話し、費用を負担していただいています。

幸いにも今までに支払われなかつた方はありません。「供養せずに人形を捨ててしまうのは申し訳ない」「たたりがある」という気持ちもあるかと思いますが、環境に留意する方が増えたんだろうと感じます。

もちろん、処分する人形を減らせるように、一部は恵まれない子どもたちに贈るといふ「リユース」をやっています。人形も喜んでもらえるるところで飾られてうれしいことでしょう。

宮司という伝統的な職種でありながら、時代に合わせた

やり方を工夫していく、そういうアンテナは必要だと思えます。

地域活動に参加して

宮司という仕事を通して、地域の人たちといろいろな交流が生まれます。そんなわけでは加太観光協会理事や「友が島を愛する会」会長をやらせていただいています。

「友が島を愛する会」は、加太と友ヶ島を結ぶ航路が廃止になるといふ動きがあつたころ、署名運動や市長

への要望活動を通じて、地元の旅館関係者や加太の将来に危機感を持つ若手を中心に大いに盛り上がりました。これまでの観光事業を行政に頼りすぎたことを実感し、この街を発展させていくには、民間の取り組みも大事なことだと気づかされ、今、有志と共に「これからのまちづくりをどうするか」という議論を重ねています。

現在、地元の小学



生からのおすすめスポットをウォーキングマップにし、年間三万部配布したり、漁師が直売りする昼市をサポートしています。神社にはこの3年間に私一人でツバキの苗木80本を植え、町をアピールする試みを行っています。こういった活動を続け、住民はもちろん、行楽に訪れた人にも「ゆつたり過ごせるまち」にしていきたいと考えています。

皆様のお越しをお待ちしています。

平成19年度 新規加入会員について

平成19年3月に母校を卒業され、平成19年度に本会正会員となられました会員の方々についてご報告いたします。なお、母校の卒業生総数は平成19年3月卒業生を含め、11,829名です。

平成19年度新規加入会員は、撰陵第31期生259名です。中学校より撰陵に学ばれた方は平成13年4月に、高校より撰陵に学ばれた方は平成16年4月にそれぞれ入学された方々です。本会では撰陵第31期生の皆様の入会を大歓迎いたします。母校の一層の発展と、同窓生同士の交流活動にご協力いただきますようお願いいたします。

第31期生の幹事には、次の2名の方が就任されました。

荒木田裕太氏
中尾貴昌氏

秀麗会役員・幹事紹介

(敬称略)

●左記の11人で役員を
務めています

- 会 長 祖田好夫(繊維2期)
 - 副会長 福永正博(繊維3期)
 - 副会長 古賀郁朗(撰陵1期)
 - 庶 務 上沼敏彰(繊維4期)
 - 庶 務 西田昌司(撰陵1期)
 - 書 記 小坂克彦(撰陵4期)
 - 書 記 渡邊斉章(撰陵22期)
 - 会 計 浅野正憲(繊維3期)
 - 会 計 前澤郁浩(撰陵5期)
 - 会計監査 堀川日出男(繊維10期)
 - 会計監査 小山昇三(繊維2期)
- ※役員任期は平成18年2月25日
より平成21年2月24日までの
3年です。
(規約第8条)

●各期の幹事は
左記の通りです

大阪繊維工業高等学校

- 1期 石野哲男 西條博
- 2期 小林勝 祖田好夫
- 3期 大久保光人 長浜保広

4期 早川利和 浜崎茂
(天平孝)

- 5期 大崎邦治 上野富一
- 6期 難波正 川西一義
- 7期 世良田富男 丸山隆幸
- 8期 廣瀬伸夫 高馬健治
- 9期 渡地利雄 大西裕和
- 10期 堀川日出男 藤川春義
- 11期 川村斗志也 西村弘光
- 12期 今西正 石橋高嗣

撰陵高等学校

- 1期 梶田忠彦 大向善信
- 2期 谷敷光則 石田卓也
- 3期 百北幸司 高島久尚
- 4期 中西敏朗 日野篤
- 5期 稲井恒彦 前澤郁浩
- 6期 大西太 藤井洋
- 7期 山下聡 湯澤正
- 8期 荒木陽一郎 谷本智
- 9期 瀧井秀三 石丸伊知郎
- 10期 西川忠克 森川政幸

会報編集委員人事(報告)

※平成19年3月卒業生が31期生
となります。
※17期、18期、20期、25期は氏
名が不明です。幹事ご本人又
はご存じの方は本会までご連
絡下さい。

- 新任 織維第4期 天平孝氏
(平成18年11月18日就任)
- 新任 織維第2期 山手義一氏
(平成19年1月1日就任)

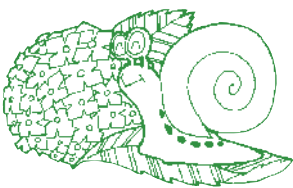
ごあいさつ

今号から制作を担当いたしますベルデアアートです。前制作会社の時からかかわり、撰陵新聞は4年前から、秀麗会会報は準備号の立ち上げから担当させていただいております。この会報が同窓生の皆さまの交流のきっかけになれば幸いです。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

(ベルデアアート 木下由香)

次号予告

次号は、平成20年6月ごろの発行を予定しています。「恩師を訪ねて」の続編や「母校の現在」など注目記事を掲載する予定です。ご期待ください。



編集後記

本号は、平成17年9月15日に発行された創刊準備号から数えて3号目となります。本会の活動体制が整うにつれ、進行もスムーズになってきました。会報の編集作業も新たに2名の編集委員が選任され、役員会メンバーと協力して編集にあたるようになりました。その結果、掲載記事の企画立案をはじめ、原稿執筆の依頼などの役割を分担、携わるメンバーの全員が一体感を持って編集された第3号です。

さて、会報編集事務局を創刊準備号の編集時より担当していただいております陸風社編集部の木下由香さんが今年の2月末をもって陸風社を円満退社され、新たにベルデアアート社を設立、独立されました。それに伴い、会報編集事務局も本号からベルデアアート社に移行、返信用はがきの戻り先やEメールのアドレスなども本号より変更されています。ご連絡をいただく際は、お間違えないようご注意ください。(K)